

土佐日記

土佐日記は、平安時代初期、紀貫之作といわれる日記紀行文である。「群書解題」によれば「後世は多く「土佐日記」と書いているが、本来は「土左日記」と書いたものらしい。古写本類には多く「土左日記」とあり、恵慶集には「つらゆきかたさの日記」ともある。（略）土佐の国から京に帰るまでの旅日記であり、土佐関係の記事が目立つところから名づけられたと見るのが穏当であろう。」とある。

(1) 土佐日記

藤原定家筆

（複製本）

写本一冊 舛形本 綴帖装 前田尊経閣文庫所蔵

奥書に「文暦二年乙未五月十三日乙巳老病中雖眼如言不慮之外見紀氏自筆本蓮華王院宝蔵、、、」とあり、この奥書によつて紀貫之自筆本が蓮華王院に所蔵されていたことがわかるが、現在伝っていない。

(2) 土左日記 延徳本

（複製本）

写本一冊 美濃判 慶長五年（西暦一六〇〇年）写 日本大学図書館所蔵

延徳本とは、宗綱本とも呼ばれる。延徳二年、権大納言松木宗綱が貫之自筆本を書写したものである、これらの呼称がある。この宗綱本系統には、書陵部本などがある。

(3) 校異首書 土佐日記

（常磐松文庫）

藤原磯足編著

版本一冊 美濃判 江戸浅倉屋久兵衛板 刊年不明

文政元年（西暦一八一八年）秦鼎・市岡猛彦序 内題「土佐のにき」

頭注 朱筆書き入れ

土佐日記に校異と頭注をくわえたもの。

(4) 首書 土佐日記纂注

（常磐松文庫）

檜崎隆存編

刊本二冊（上・下） 豆本 明治一六年（西暦一八八三年）「大阪」 桑林堂刊

(5) 土左日記創見

（常磐松文庫）

香川景樹編著

版本五冊（上・下各二冊・付録） 美濃判 天保三年（西暦一八三二年） 京都

河南儀兵衛板 飯嶋氏旧蔵印

土佐日記を注解したもので、「困書解題」には、「事実の真相を穿ち、字句の本義を明にして最も中正の解を得たるもの。」とある。